

シツダ・ヨーガの道におけるスワーデーヤの修行

『シュリー・ヴィシュヌ・サハスラナーマ』からの抜粋

『シュリー・ヴィシュヌ・サハスラナーマ』、すなわち「ヴィシュヌ神の千の名前」は、偉大な叙事詩、『マハーバーラタ』から来ています。この叙事詩のこの場面では、偉大な戦士であるビーシュマが戦場で負傷してしまいます。ビーシュマは、彼の甥(おい)であるユディシュティラに語り掛け、ヴィシュヌ神を崇拝することの利益を説明します。

ビーシュマは言った。

世界の神、神々の中の神、永遠なる者、至高なる人——彼の千の名前によって、彼を絶えずたたえることで、人は常に向上させられる。

そして——不滅の人、彼のみを、献身の心を持って常に崇拝することによって、彼について瞑想することによって、彼をたたえることによって、彼のみにひれ伏すことによって、崇拝する者、志ある者[は解放される]。

始まりもなく終わりもなく、ヴィシュヌ神、あらゆる世界の偉大な神、世界の目撃者——彼を絶えずたたえることによって、人はすべての悲しみを乗り越えることができる。

「ヴィシュヌ・サハスラナーマ： ヴィシュヌ神の千の名前の序論」 第6節-第8節
英訳は、『*The Nectar of Chanting*』 (South Fallsburg, NY: SYDA Foundation, 1983) pp. 74-75 による。

表紙デザイン・レイアウト: Jaime A. Castañeda

© 2017 SYDA Foundation®. 著作権所有。